



岩手県を代表するブランドりんご品種
「はるか」で仕込んだワイン



2023年産
500ml

HARUKA
Apple Wine
はるかりんごワイン

「この品種が生まれた当初は、見かけが良くなくてあまり期待されたりんご品種ではなかったようだね。」

川村果樹園の川村さんは懐かしそうに言う。
川村さんがこの品種の開発者である当時の岩手大学農学部 横田教授から品種登録前に苗を譲り受けたのが平成11年。川村さんの娘さんが岩手大学在学中に横田教授と知り合ったのがきっかけだった。

「新しく作ったりんご品種があんまり人気ないんだと言って横田教授が持たせてくれたんだ。」

その時譲り受けた、後に「はるか」として品種登録されるこのりんごの苗木数十本を、川村さんは早速圃場に植え、大切に育てた。

この品種は平成14年に「はるか」として品種登録されたが、川村さんからみてもサビ（遅霜などによりりんごの果皮の一部がざらついて茶色くなり錆のようになること）が発生しやすく、外観が良くなかった。味わいの評判は良かったので店には出していたが、爆発的に売れることはなかった。

このりんごが生産者に認知されるようになるきっかけに、一つのある“事件”があった

「二戸の生産者が間違っ袋をかけたらすごく良いりんごになったんだよ。」

もともとはるかは無袋で栽培されていた品種だったが、生産者が隣のりんごと間違っ袋掛けをしたところ、果皮が肌触りの良い綺麗な淡黄色になり、蜜入りの優れた食感の良いりんごになったのだという。

その後、消費者にも「はるか」の特別な味わいが評判となり、岩手県を代表するブランドりんご品種となり、その名は県外まで知られるようになった。それにしただって生産者も増えたが、栽培に手間のかかる品種なので、生産量はそれほど増やせず、現在でも希少で高価な品種となっている。

以前よりは栽培量が減ったとは言え、川村さんは今でも年間10数トン「はるか」を収穫している。個人でこのくらいの量を栽培している生産者は珍しいのではないかと川村さんは言う。

川村さんには、20年以上前から「ほたる・白」、「無ろ過・白」の原料である白ぶどう品種（ナイアガラ）を供給していただいている。2022年からは特別にワイン用の「はるか」も分けてもらえるようになった。

「はるかがワインになるなんて思ってもみなかった。楽しみだね。」

川村さんは、自分が育てた「はるか」の樹を愛おしそうに見上げた。



取材・記事

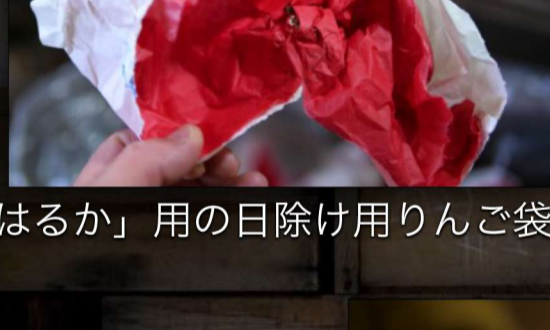
株式会社岩手くずまきワイン 製造部 大久保圭祐



「はるか」の花



「はるか」の樹を見上げる川村さん



「はるか」用の日除け用りんご袋



選別作業 生食用と加工用に選別する



見た目が良くないものは加工用（ワイン用）となるが、風味は遜色ない



りんご「はるか」生産者
岩手県紫波郡紫波町西長岡地区 川村果樹園 川村巖さんと
従業員のみなさん

●ワインの味わい

岩手のブランドりんご「はるか」で、真冬に丹精込めてじっくり醸した甘口のりんごワインです。

蜜のような甘さと爽やかな甘い香りをお楽しみください。



岩手県を代表するブランドりんご品種
「はるか」で仕込んだワイン

2023年産
500ml

¥1,898（税込）



HARUKA
Apple Wine
はるかりんごワイン

